広島県立保健福祉短期大学紀要　4 (1)　13－16　1999

コーピングにおける性差

加藤知可子

広島県立保健福祉短期大学看護学科

抄　録

本研究における目的は，CISS（Coping Inventory for Stressful Situation）日本語版を用いてコーピング（対処行動）における性差を検討した。調査対象は，大学生，専門学校生，大学院生の男性95名，女性100名の合計195名である。その結果，ストレスの原因となっている問題に対して計画的，冷静に行動するという対処行動である課題優先コーピングでは男性が女性より有意に高く，コーピングにおける性差が認められた。つまり，課題優先コーピングにおける性差は男性性の獲得を含む性役割の影響が推測される。

キーワード：ストレス，コーピング，課題優先コーピング

はじめに

近年，ストレス，コーピング（対処行動）と精神身体的健康の研究が行われている。コーピングという用語はフロイトが最初に使用したとされ当初は不安に対する無意識の防衛機制と定義されたが最近のコーピングに関する研究の広がりはコーピングの概念，測定方法に混乱をもたらし様々な定義，測定方法が存在する結果となった。コーピングの測定方法には基本的に精神症状計測学的に満足するものが見当たらなかった。それは信頼性や妥当性，および因子構造が不十分であるため知見の追試が行えない問題点がある。そこで本研究では，コーピングの定義にはFolkman＆Lazarusu[1]（1984）のある場面における情緒的苦悩や緊張感を予防あるいは解消しようとする，意識的で努力的な認知や行動であるとする定義を用いる。またコーピングの測定方法ではコーピングを高い信頼性と妥当性をもって測定できると判明されたCISS日本語版（Coping Inventory for Stressful Situation，ストレス状況における対処行動目録）を本研究では用いる。CISSはストレス状況に対する被験者の典型的な対処様式を信頼性と妥当性の高い方法で測定するためN. S. Endlerが中心となって開発した自己記入式調査票である。CISSでは課題優先コーピング（Task Oriented Coping），情緒優先コーピング（Emotion Oriented Coping），回避優先コーピング（Avoidance Oriented Coping）の３尺度，各16項目から構成されている。CISS日本語版は癌，鬱病や精神分裂病などの精神疾患，気管支喘息や胃・十二指腸，本態性高血圧などの心身症におけるコーピングの測定に用いられている。さらに精神的健康にはストレス場面におけるストレッサーの影響度や脅威度に対する個人的な認知のあり方[2]だけでなくコーピングの活用が関与する[3]。また生物的な性差（性別）は経験されるストレッサーを決定する上で重要であり一方でストレッサーに対するコーピングへの性別の影響の可能性があり性別によってコーピング得点が異なる報告がある[4]。本研究では信頼性および妥当性の高いCISS日本語版を用いて生物的性差によってコーピングが異なるかを青年期の学生を調査対象にして検討する。

実験方法

1．被験者

調査は大学生（C大学心理学科，D大学神学科），専門学校生（理学療法士養成），大学院生（C大学心理学専攻）を被験者とした。調査期間は1997年11月26日から12月18日であった。調査票を被験者に配布し回収した。回収率は100.0％であった。調査項目表のすべての項目に記入漏れのなかったものを有効回答とし本研究の分析対象とした。有効回答率は93.3％であった。分析対象とした被験者は男性95名，女性100名の合計195名であった。被験者全体の平均年齢は20.1歳（標準偏差2.4）であり，男性が21.1歳（標準偏差2.8），女性が19.2歳（標準偏差1.4）であった。図１は被験者の学歴別の分布である。図１に示すように被験者全体，男性，女性とも大学生が多くを占めた。

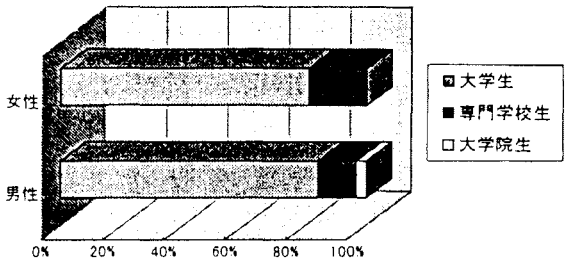

図１．被験者の学歴分布

2．調査方法および調査用紙

CISSはN. S. Endler が作成した自己記入式コーピング調査票であり，これをもとに古川ら[5]が日本語版に作成した。回答は苦しくてつらい状況が起こったときにそれぞれのコーピングの方法を自分がどれぐらい用いるかについて，したことがない，まれにそうする，ときどきそうする，だいたいいつもそうしている，いつもそうしているの１～５までの５段階評定する。CISS日本語版は各尺度の得点が高いほどそれぞれのコーピングをより多く使用していると判断する。課題優先コーピングとは，問題になっている出来事に対して冷静に判断したり計画的に行動するといった対処方法を示している。あるいはストレスの源を取り去るため特定の行動をとることである。情緒優先コーピングとは，感情を発散したり，感情を変化させる対処方法を示す。回避優先コーピングとは，問題となっている状況から逃げだし，考えないようにしたりするといった対処方法を示している。

CISSでは「いろいろな出来事について対応のしかたは人によってさまざまです。苦しくてつらい出来事が起こったときのいろいろな対処方法のリストを下に掲げました。苦しくてつらい状況が起こったときに，それぞれの対処方法を自分がどれくらい用いるか，もっともあなたに当てはまる番号ひとつに○をつけてください」と教示した。調査の記入が終った後に被験者に記入漏れがないかの確認を依頼した。

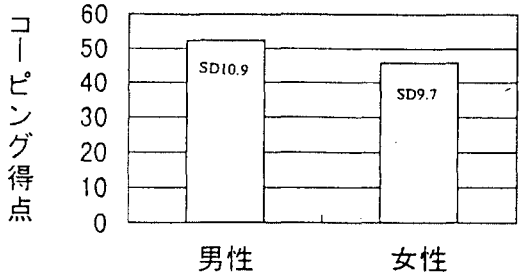

図２．課題優先コーピング平均得点

結　果

コーピング尺度の男女比較では課題優先コーピング平均得点では男性52.3（標準偏差10.9），女性45.8(標準偏差9.7）であった。情緒優先コーピング平均得点では男性40.8（標準偏差10.7），女性41.7（標準偏差12.0）であった。回避優先コーピング平均得点では男性37.8（標準偏差9.3），女性39.7（標準偏差10.0）であった。さらに男性の各コーピング平均得点と女性の各コーピング平均得点に有意差があるかをt検定を用いて検討した（F検定にて，母分散が同質であると検定したため)。その結果，図２に示すように課題優先コーピング平均得点では男性が女性より１％水準で有意に高かった（df＝193, t＝4.381, p＜.01)。情緒優先コーピング平均得点(df＝193, t＝0.549)と回避優先コーピング平均得点(df＝193, t＝1.937)では，男性と女性に有意な差は認められなかった。以上の結果から課題優先コーピングにおいてのみ性差が見られた。

考　察

CISS原版では大学生を対象とした標準化では課題優先コーピングにおいては男性の平均値が56.82（標準偏差9.98)，女性の平均値が55.11（標準偏差10.25）であった。情緒優先コーピングでは男性の平均値が43.18（標準偏差10.96)，女性の平均値が48.20（標準偏差11.30）であった。回避優先コーピングでは男性の平均値が42.62（標準偏差10.81)，女性の平均値が47.27（標準偏差10.78）であった。CISS原版の平均値では課題優先コーピングは５％水準で男性が女性より有意に高く，情緒優先コーピングでは１％水準で女性が男性より有意に高く，回避優先コーピングでは女性が１％水準で男性より有意に高く３種類のコーピングすべてに性差が認められた。ところが本研究の結果では課題優先コーピングでは性差が見られたが情緒優先コーピング，回避優先コーピングでは性差が見られなかった。つまりコーピングに影響を与える性役割タイプの分布が異なっていたと推測される。男性が女性より持っているとされる男性性が関係していると思う。性別でなく性役割が関係すると考察する根拠は男性が女性より高い平均値である課題優先コーピングのみ有意差が見られたが，女性が男性より高い平均値である情緒優先コーピング，回避優先コーピングには有意差は認められなかったことから男性の性別の背景にある社会文化的側面の性役割の影響を推測した。つまり，コーピングでは性別だけでなく，性に基づいて社会から期待される（俗に言う女らしさ，男らしさ）性役割が関係すると推測される。今後コーピングにおける性役割の影響を調査する必要がある。

おわりに

本研究ではCISS日本語版を用いて，コーピングにおける性差を検討した。その結果，課題優先コーピング平均得点では男性は女性より有意に高かった。課題優先コーピングと性別に関係が認められた。問題に対して冷静，積極的に対処する課題優先コーピングにおいてのみ性差が認められたのは先行研究の結果と矛盾しており，この結果から性別の社会的文化的側面の性役割の影響が推測され今後検討が必要である。

文　献

1) 本明寛，春木豊他監訳．ストレスの心理学．実務教育出版，1991
2) 中野敬子．対処行動と精神身体症状における因果関係について．心理学研究，61：404－408，1991
3) 尾関友佳子，原口雅浩他．大学生の生活，ストレッサー，コーピング，パーソナリティとストレス反応．健康心理学研究，4：1－9，1992
4) Korabik, K. and Kampen, V. J. Gender, social support, and coping with work stressors among managers. Journal of Social Behavior and Personality, 10:135-148, 1995
5) 古川亮，鈴木ありさ他．CISS（Coping Inventory for Stressful Situation)日本語版の信頼性と妥当性．対処行動の比較文化的研究への一寄与．精神神経学雑誌，95:602－621，1993

Bulletin of Hiroshima Prefectural College of Health and Welfare 4 (1) 13−16 1999

Difference in coping behaviors between young men and women

Chikako KATOU

Department of Nursing, Hiroshima Prefectural College of Health and Welfare

Abstract

The objective of this research was to study the difference of coping behaviors between young men and women based on the Japanese version of the CISS(Coping Inventory for Stressful Situation). The number of subject people was 95 males and 100 females, who were college, university and graduate students. The research has proved that there is a difference in coping behaviors between males and females because the figures for males were significantly higher than those for females in the task-oriented coping. However, in both the emotion-oriented coping and avoidance-oriented coping, a significant difference has not been found between males and females.

Key words : stress, coping, task-oriented coping